

第4回大東市デジタル化推進本部会議 議事要旨

日時：令和4年3月1日（火）午後3時30分～4時15分

場所：オンライン会議

出席：東坂市長、野田副市長、水野教育長、松本上下水道事業管理者、
田中理事兼総務部長、品川理事兼議会事務局長
中村危機管理監、東政策推進部長、木村市民生活部長、
奥野人権政策監、青木福祉・子ども部長、北本保健医療部長、
今出都市整備部長、北田産業・文化部長、延田上下水道局長、
北田教育総務部長、伊東学校教育政策部長、
辻本選挙管理委員会・公平委員会・監査委員事務局長、山鬼会計管理者
（事務局）
清水政策推進部総括次長、川口行政サービス向上室長、
田中行政サービス向上室課長、白井

【次第】

次第1 大東市DX推進基本計画（案）について

次第2 その他

（市長）

昨今の社会情勢やコロナ禍など、行政に携わる者は、何が起こるかわからないことを想定し、最も適切で効果的な準備をしていくことが肝要である。その中において、DXが大きな位置づけであることをこれまでも確認してきた。

先日の施政方針演説や代表質問においても、議員の皆様や市民の皆様の関心の高さが良く分かったとともに、同時に感じたのは、多くの皆様が不安も持っているということ。特にデジタルデバイドの問題は、技術の進展が人と人との温かさを奪っていくのではないかという不安がある。こういった必要以上の不安や混乱が起こる前に、しっかりとその内容を周知していきながら、その必要性和利便性、そして高い効果を広げていく必要がある。本日はその一つの成果を共有できる場でもあるので、慎重にそして注意深くこの会議に当たってもらえればと思う。

事務局から資料に沿って説明。以下、質疑応答及び意見交換。

（福祉・子ども部長）

基本的な考えとしてはこの基本計画で示されているが、具体的にどう進めていくのかというところはこれからしっかり考えていく必要がある。特に福祉の分野は、デジタル化を進めることと合わせて、窓口対応についてのバランスをどうとっていくのが重要となるので、そのあたりをしっかり抑えながら進めていけたらと思う。

(市民生活部長)

総合窓口に関する記載については、デジタル化と言いながらも、市民が来庁することを想定し、リアルなその場での窓口対応について触れている。そこで使われている機器材やシステムについての一元化の議論もあると思うが、先日市民課で初めて予約制を導入しており、非常に有用性があると感じている。総合窓口のところで、予約制の導入についても言及いただければどうかと思う。

また、基本計画の26ページのKPI管理の項目で、参考で目標設定のコツとしてSMARTの法則の記載がある。人事評価制度において全職員が目標設定をしているが、そこにおいてもこの考え方は参考になると思ったので、評価制度の中でもこのコツを取り上げて、全職員の参考にしてもらえればどうかと感じた。

(事務局)

予約制の導入については、アクションプランに記載していく方向で考える。SMARTの法則については、人事と内容を共有する。

(危機管理監)

マインドセットとして“ファーストペンギン”という言葉があったが、前例踏襲にはとらわれないということで、これまでのどちらかと言うと石橋を叩いて渡るという発想から、先進技術を取り入れるためには、こういった姿勢でなければいけないと思った。また、印象的なのは、単なるデジタル化ではない、これをもって市民生活の向上に努めていくという点。

アクションプランに記載があるが、危機管理室においては、防災アプリの導入を進めており、先陣を切ってデジタル化を進めたいと思っている。計画というのは絶対に成功させなければならないものだと思っているので、ぜひとも成功させていきましょう。職員全員が同じ方向を向いて、温度差を変えずに、デジタル化を進めたいと思うのでご協力をお願いします。

(副市長)

やはり今回の計画では“ファーストペンギン”という言葉が印象的。これでこの計画で何が言いたいか伝わるので、これが共有できるだけでも意義があると感じている。

(市長)

皆さんに改めて強調したいのは、進むべきかどうか、採用すべきかどうかを議論する

というものではなく、やらなければならない、進まなければならないものだという認識を共有する必要があると思っている。進まなくてはいけないので、より良い道をつくりましょう、やらなければならないので、やりやすい手段を探しましょうということ。歩む道をいかに歩みやすく、広がる世界をいかに理解しやすくするのが、これを議論していく上で、この基本計画はふさわしい内容となっている。一丸となって進めていければと思う。

(副市長)

他に何もなければ、本日の会議はこれで終了する。